

「下水道管更生技術施工展2013東北」が復興の進む宮城で開催



篠田 康弘
SHINODA Yasuhiro

(公社)日本下水道管路管理業協会
常務理事

1. はじめに

管更生工法は、長寿命化対策として位置付けられるとともに、総合地震対策事業の主要な対策として多用されるなど、多くの自治体において採用が進むなど注目度の高い技術である。一方、修繕技術は安価に損傷箇所を再生するとともに、更生工法の前処理工法としても最近多用されるようになってきている。これらの技術を中心に管路管理に関する最新の技術や製品の実演を実際に見ていただき、また、直接話を聞いていただき、実感を持って知っていただくことを目的に、第13回「下水道管更生技術施工展（以下、施工展という）」は、震災復興の進む宮城県内利府町グランディ 21にて10月4日台風一過の絶好の天候の下で開催された。主催は当協会、今回は国土交通省北陸地方整備局、宮城県、仙台市、利府町、宮城県下水道公社、東北地方下水道協会、(公財)日本下水道新技術機構の後援を得て、38団体の出展と耐震技術のパネル出展として6団体(重複あり)、計43団体が出展する、これまでで最大規模

となった。また、来場者は1,204名となり、復興・復旧が急ピッチで進み多忙な関係者が多い中での開催としては、多数の参加者を得ることができた。

さらに地元「仙台社の都親善大使」のお二人も折々で登場し、華やかな雰囲気も醸し出していただいた。

2. デモ施工・展示説明

開会式には、来賓として国土交通省東北地方整備局建政部長、宮城県土木部長、仙台市建設局次長、利府町上下水道課長が出席され、それぞれの挨拶に引き続きテープカットが行われ、いよいよ実演開始となった。

出展団体を分類別に示したのが表-1で、管きよ更生・補修・改築技術が中心であるが、調査等技術や安全衛生管理も多く出展されていた。実演は、1団体15分から30分程度の枠を設け順番に工法等の施工手順を間近で見ることができるよう企画したが、何か所かで説明を聞く小規模な人のかたまりができることもあった。また、会場が比較的広く確保できたことから、

表-1 施工展開催実績

分類 (団体数)	出展団体名 (協会等は省く)
管きよ更生・補修・改築 【18】	EX・ダンビー, EPR工法, ASS工法, SDライナー工法, FRP内面補修工法, FFT工法, オールライナー, カナフレックスコーポレーション(株), 3SICP技術, 全国カテシステム工法, 日本インシチュフォーム, 日本SPR工法, 日本スナップロック, パルテム技術, 光硬化工法, HIT工法, SSL工法, ポリエチレンライニング工法
穿孔ロボット 【1】	(株)南陽
コンクリート防食・被覆 【2】	クリスタルライニング工法, 太平洋マテリアル(株)
マンホール改築・補修 【3】	MR ² 工法, MLR, (株)グラウンドデザイン
管内洗浄・清掃 【3】	いすゞ自動車(株), 兼松エンジニアリング(株), (株)北日本ウエスターン
調査・点検・診断・解析等 【6】	管清工業(株), (株)カンツール, 管路情報技術活用(有), (株)キュー・アイ, 日本タップ(株), ペンタフ(株)
安全衛生管理 【5】	(株)重松製作所, 新コスモス電機(株), (株)谷沢製作所, 日本レイシステムズ(株), 理研計器(株)
耐震技術 【6】	下水道既設管路耐震技術, 全国アドホール, 全国ユニホール, 千代田工営(株), 日本スナップロック, 藤村ヒューム管(株)

ゆったりとした間取りができ、余裕を持ってみる事ができるとともに、観客が散在する印象が窺えた。

今回の特徴的なこととしては、地元会員による伏越し等の洗浄や碎石の吸引技術の大掛かりな実演が行わ



写真-1 開会式のテープカット



写真-3 講演会の様子



写真-2 会場全体の様子



写真-4 来賓・親善大使の見学

表-2 施工展開催実績

回数	開催都市	開催場所	開催日	出展数	入場者数
第1回	和泉佐野市	りんくうタウン	H13.12.06	19	923名
第2回	大阪市	コスモスクエア	H14.11.08	24	1,107名
第3回	広島市	海島博覧会場跡	H15.10.24	26	1,531名
第4回	名古屋市	名古屋市応急給水センター	H16.10.08	33	1,474名
第5回	佐賀市	どん3広場	H16.11.11	28	1,082名
第6回	塩竈市	JR本塩釜駅貨物ヤード跡地	H17.10.06	29	1,237名
第7回	小樽市	「小樽築港前駅」前JRヤード	H18.06.16	28	1,245名
第8回	松山市	城山公園内	H19.10.12	29	1,338名
第9回	三郷市	中川水循環センター	H20.10.9-10	28	2,346名
第10回	大阪市	コスモスクエア	H22.10.06	28	1,786名
第11回	福岡市	舞鶴公園西広場	H23.10.05	28	1,354名
第12回	新潟市	新潟市中央区鐘木地内	H24.10.03	34	1,236名
第13回	利府町	宮城県グランディ 21	H25.10.04	37	1,204名

れ、注目を集めていたことが挙げられる。また、震災復興の進む東北地方ということで、耐震技術の6工法にもパネル展示という形で参加していただいた。

3. 講演会

併催行事として表-3（敬称略）に示すような講演会を大型テントで行った。

宮城県の小野主幹からは、県内の震災被災状況と復旧方針及び対策事例等についての説明があった。また、仙台市の木皿技師は、震災による被災状況と復旧の現

表-3 併催行事としての講演会（敬称略）

『宮城県における下水道災害の復旧について』	宮城県土木部下水道課企画整備班班長技術主幹 小野 栄
『仙台市における下水道改築修繕計画の考え方』	仙台市建設局下水道経営部経営企画課技師 木皿 尚宏

状を説明し、津波・地すべり地区を除き平成25年度完成を目指していること、その後も更生工法を中心とした地震対策事業とアセットマネジメントを推進することを力説された。

4. おわりに

この展示会は、毎年当協会の7支部の持ち回りで開催されており、2順目も終盤に差し掛かっている。今回は、東北開催ということで耐震性についての関心が高く、説明や実演工法も耐震に的を縛ったものが多く見られたが、開催地の特性により、また、その年の時勢を反映して出展内容や説明、講演も変わるものと考えられる。来年の開催支部も年内には決定されるが、その地域に相応しい企画とするよう当協会内の「修繕・改築委員会」及び「施工展運営委員会」において検討してまいりたい。



40年の実績 プロが認める“仕事に役立つ”専門紙

下水道情報

SEWAGE WORKS NEWS BIWEEKLY

国土交通省所管の下水道事業をはじめ国の水環境保全に関する施策や地域のプロジェクト動向を掘り下げて伝える“プロ仕様”の専門紙です。

- ◆独自調査データが充実 最近のおもな特集掲載例… [下水処理場の維持管理に関する動向調査] [社会資本総合整備計画から探る下水道事業の需要見通し] [下水汚泥の焼却・溶融等施設に関する実態調査] [日本下水道事業団の業者別受注高ランキング] [地方公共団体における管きよ更生工事の実績と今後の事業見通し] など
- ◆新技術開発、国際展開、主要関連団体・民間企業の動向、資源循環の取り組み、震災復旧、エネルギー対策、処理場データ、各種ランキングなど

- ◆国土交通省など国の水環境保全に関する施策、長期計画、予算、事業方針、組織・人事
- ◆日本下水道事業団の事業計画、予算、受託業務、技術開発、組織・人事、入落札情報
- ◆都道府県、市町村などの事業計画、長寿命化計画、維持管理・改築更新、予算・交付金、事業方針

・隔週火曜日発行 B5判 32～40ページ（通常）
 ・購読料 年間契約 88,700円（税・送料込）

■試読見本をお送りいたします。お気軽にご連絡ください。

お申込み・お問合せは

公共投資ジャーナル社 総務部 TEL. 03-6721-5371
 〒105-0003 東京都港区西新橋2-19-2 ✉ ktj@nifty.com

↓ ウェブサイトからも情報発信中 ↓
www.kt-j.com